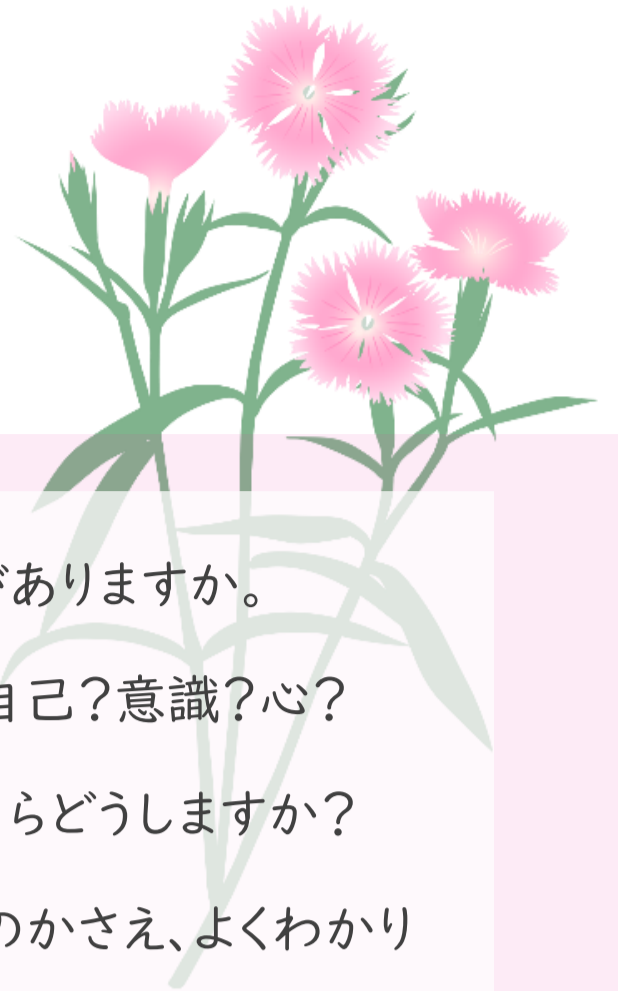


# 人間科学部

## 教授 小杉 考司



みなさんには「これが自分だ」「自分らしさだ」といえるものがありますか。

そのまえに、「これが自分だ」というのは何のことでしょうか。自己？意識？心？

それは言葉を変えただけで、説明にはなっていない、と言われたらどうしますか？

心理学は心の学問です。心というのは、それがあのかないのかさえ、よくわかりません。

心理学者はロマンチストですから、世界はそれを愛と呼ぶんだぜ、とばかりに、それを心と呼ぶ何かを仮定しながら研究しています。

ご紹介するこの本は、「心」とか「意識」と呼ばれているものについて、心理学だけでなく情報理論、生理学、複雑系科学など様々な知見をつかってアプローチしていきます。問いそのものは哲学的ですが、「心」とか「意識」について、科学はここまでアプローチしてきたのだ、ということが驚きとともに経験できる良書です。

少し厚い本ではありますが、ストーリー性のある記述になっていますから、すいすい読んでいくことができます。意識についてどれか一冊だけ読むとするなら、この本が最良の一冊です。

友達との何気ない会話、自分の意思による行動など、普段なら疑うことのない日常のワンシーンにも、心理学やその他の科学が考えなければならないことはたくさんあります。この本を通じて身の回りに広がるたくさんの題材をよみとり、学術的にアプローチする楽しさを、大学生活の中でたっぷり学んでいってください。



トール・ノーレットランダーシュ(2002)

『ユーザーイリュージョン;意識という幻想』(柴田裕之訳)紀伊国屋書店

本 館: K/141/N96 107357212  
Knowledge Base: 141/N96 111068789



読書のスルメ2020

